

平成19年2月

縄田信彦 学位論文審査要旨

主 査	井 上 幸 次
副主査	山 元 修
同	清 水 英 治

主論文

反復抗原暴露によるマウスアレルギー性結膜炎モデルにおける肥満細胞拘束性プロテアーゼの変化

(著者：縄田信彦)

平成19年3月 米子医学雑誌 58巻掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はより臨床的状況に近い反復抗原暴露によるアレルギー性結膜炎の遷延化モデルを新たに開発し、これを用いて、肥満細胞拘束性プロテアーゼをマーカーとして肥満細胞のプロファイリングが変動するか否かを検討し、これらに重要なシグナルを賦与すると考えられるリガンド群の発現解析を試みたものである。その結果、抗原暴露を繰り返すことにより、臨床症状の増悪・炎症細胞の増加・その関連分子の増加に伴って肥満細胞拘束性プロテアーゼの増加がみられること、一部で粘膜型のプロテアーゼも認められることを確認した。この結果はⅠ型アレルギーにおける肥満細胞の役割について新たな知見を加えるものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。